2024 年 5 月20日

2025 年 4 月 26～27 日　第 8 回うつ病リワーク協会年次大会　参加報告

2025 年4月 26 日(土)～27日(日)にかけて、長野県で開催された第８回うつ病リワーク協会年次大会にスタッフ2名が参加しました。会場では「地方都市における持続可能な医療リワーク」をテーマに各種シンポジウム、教育講演が実施されました。 以下、各スタッフからの報告を記載します。

施設認定委員会企画シンポジウム ：「新しい施設認定基準：医療リワークが目指すもの」

本来リワーク支援はエビデンスに基づいて、専門職が実施しているものであるが、近年は十分に知見を有さない福祉事業所が、福祉制度の報酬体系を利用してリワーク支援を実施、高額な利用料を手にするケースが発生している。これに伴い本来医療機関で十分な治療、支援を受けて復職するべき人たちが、協会が推進してきたリワークプログラムと勘違いして福祉事業所に誘導され、不十分な状態で職場復帰をしてしまう事例が散見されている。そのため、改めて医療リワークの基準を確認、見直して一層の支援の質の向上を図ることが大切である。

参加者所感　福祉事業所のスタッフとしてンポジウムに参加し、福祉施設が行うリワーク支援が外部からどのように評価されているのかを実感した。同時に、医療リワークをモデルとして構築してきた FIKA 広島紙屋町のリワーク支援において、未だ不十分な点を確認、「人材育成のためのマニュアル」「心理検査などの客観的評価」の項を整備していく必要があると認識した。今後は、リワーク支援における知識技能に不安を有する同業の事業者に対して、啓発活動、知見の共有を行い、福祉業界全体で社会的な信頼を得ることが課題であると考える。

教育講演３ ：精神疾患の認知機能障害の意義と認知機能リハビリテーション

精神疾患に罹患した場合、認知機能に障害を認めることが多くある。阻害される機能は大きく分けて 2 種類であり、一つは「神経認知」：注意力や言葉の流暢さ、記憶、処理速度など、情報を処理する力、一つは「社会認知」：他人の気持ちを理解したり、共感したり、原因を考えたりする能力　である。これらが阻害されることによって、日常生活や人間関係に様々な影響を与えると考えられる。近年研究機関による研究活動を経て、様々な検査法、改善方法が開発されているため、積極的にその知見をリワーク支援に取り入れていくことが望ましい。

参加者所感　認知機能の改善のためには、脳のトレーニング・規則正しい生活・ストレス管理・社会的交流・新しい事への挑戦等多様なトレーニング方法があることを学んだ。そして講演中に紹介された北海道大学で開発されたシステムは、弊事業所でも認知機能訓練の一環として取り入れることが可能であると感じた。その一方で、日常生活における工夫や習慣、その継続は認知機能の改善に寄与する基本的な取り組みであることも示されたため、引き続き弊所の日々の支援の中で丁寧に取り組む部分であると感じた。

FIKA 広島紙屋町では引き続きスタッフが最新の知見取得、
支援技術の向上に努め、より良い支援を
利用者さまに届けていきたいと思います。